

3 学期始業式

あけましておめでとうございます。令和2年がみなさんにとって素晴らしい年になることを願っています。この冬休み中も、事故の報告もなく大中生がそろって登校していることをとてもうれしく思います。年末はやっぱり紅白歌合戦を見ました。歌の祭典なのですが、バックに流れる映像はスポーツの場面が多く、2020東京オリンピック・パラリンピックの応援の色合いを強く感じました。いよいよビッグイベントが開催される年になりました。私たちも参加する選手に負けないように、書道部掲示作品「昨日の自分を超越する」「創造」「飛躍」の年になるようにがんばりましょう。新年と3学期のスタートが重なったこの時期です。長期的な目標と短期的な目標の二つを決めて、そのことに取り組んで頑張っている自分をイメージしてみてください。長期的な目標とは、例えば1、2年生はそれぞれ進級し学習や部活動でこんな風に頑張り、目標をクリアしようとか、3年生は新しい進路先でこんな生活をして成果を出そうという様に、かなり先の自分に対しての目標です。短期的な目標は、3学期という残り僅かな時間に、どのように過ごしていこうかという目標です。1、2年生は、この学年や学級での生活を大切に、最後に笑って修了式を迎えられるように。3年生にとってはこの短期的な目標がとても重要になってきます。健康にも気を付けて自分の目標を達成してください。そして素晴らしい卒業式を迎えられるように自分を大切に過ごしていきましょう。



<書道部掲示作品>

始業式意見発表

※今回は、作文コンクール、ダンス世界大会、少年の主張で好成績を納めた3人の発表です。

「祖母の歩幅」

1年3組 横山 桃音

私たちは、いつも急いでいます。休む暇がないくらい急いでいます。ですが、年を取っておじいちゃんおばあちゃんになると、急ぎたくても急げません。何をしてもゆっくりになってしまいます。私の祖母は、足が悪くてつえをついています。なので、他の人よりも歩くのがずっと遅いです。私が祖母と歩くときは、祖母の歩幅に合わせて歩きます。なので、いつもゆっくり歩いています。私はそんな足の悪い祖母と歩いてみて、いろいろなことに気がきました。バリアフリーが進んできましたが、まだまだ生きづらい世の中だと思いました。まず、駅でも階段しかないところがあったり、エレベーターがあっても遠い場所にあり、かえってたくさん歩かないといけなかったり、とても大変だと思いました。トイレも、和式トイレの所もまだあって祖母には使えません。祖母が、安心安全に暮らせる世の中になることを願っています。私は、どんなこともやるのが遅く、ゆっくりです。時間内に課題が終わらず、苦勞することもよくあります。人よりゆっくり時間が流れているようで、遅くなってしまいます。親からは、いつも「早く、早く」とせかされています。そんな時は、祖母みたいにゆっくり歩いてくれたらいいのになと思います。しかし、反対に親から注意されないように、気をつけようとも思います。そのためには、5分前行動をすることや時間を意識すること、すぐに物事に取りかかることを意識していきたいです。私の歩幅も祖母と同じように、ゆっくりで人より小さいけれど、一生懸命歩いています。みんなは急いで歩いていると思いますが、たまには立ち止まってみたり、人を気づかってゆっくり歩いてみたら、きっとすてきな世界がまっていると思います。人を思いやれる、また助け合える世の中になってほしいと心から願います。私は、これからも祖母の隣を歩いていきたいです。そして、祖母に困ったことがあったら助けてあげたいです。優しい祖母がと



っても大好きなので、ずっとずっと長生きしてもらい、楽しい時間をたくさん過ごしたいと思います。祖母のように、足の悪い人を見かけたら、すぐに手を差し伸べてあげたいです。私は、これからも一步一步前を向いて胸を張って、歩いて行きたいと思います。未来はきっと明るいと思ってるから。あなたはどんな歩幅で歩いていますか。

「新たな挑戦」

2年2組 尋田 祈



僕は去年の8月末に世界36カ国500チーム以上が参加するダンスの大会で、僕が所属するチームで世界一になりました。そのときのことを話します。4月に京都で、日本の代表を決める予選が行われ、最高得点で優勝することができ、8月末にイギリスでの世界大会に挑みました。僕のチームが出る部門は京都の予選では16歳以下の部門でしたが、本番では年齢制限なしの最も難しいレベルの部門でした。2つの予選を勝ち抜き、決勝に挑みました。この大会まで、ほぼ毎日6時間のきつい練習をしました。ですが、そんなときチームのみんながいたからきつい練習にも耐えられました。迎えた決勝、今まで出たどんな大会よりも一番緊張したのか、踊り出しは体が重く感じ、頭が真っ白になりそうでした。ですが徐々に歓声が聞こえ始めて緊張が解け、全力を出しきることができました。踊り終えたと同時に大きな歓声とスタンディングオベーションが起こりました。この時の達成感は忘れられません。そして結果発表。ベスト8から順にチーム名が呼ばれ、最後に呼ばれたのがArk kids 僕たちのチーム名でした。なんと世界の頂点に立つことができたのです。優勝することができたのも、指導していただいた先生やチームのみんなと、何日にもわたるきつい練習にも耐え、一つになれたからだだと思います。そして、たくさんの方々の応援や支えがあって、頑張ることができました。素晴らしいチームの一員となり、素晴らしい経験ができ、これからも新たな目標に向かって努力し続けていきたいと思っています。

「顔を上げて」

3年4組 山田 陽菜



みなさんは一日の中でどれくらいスマホを使いますか。多くの人がたくさん時間を小さな画面と向き合うことに使っているのではないのでしょうか。それは決して珍しいことではなくごく普通のあたりまえのことだと思います。しかし、私はそんな「当たり前」という感覚に疑問を感じています。ある日、私は電車に乗りました。ほとんどの人がスマホに夢中です。小学生くらいの子まで窓の外でなく画面を見ていました。私の家は、私も両親もスマホを持っていません。だから電車に乗ったら外を見ます。次々に後ろに飛んでいく家や車。だんだんと変わる街の景色。一緒に行く人の体温を隣に感じながら目的地に思いを馳せるのです。ふと、この人たちは周りが見えていないのではと思います。自分が巻き込まれなければ、他人が何をしても関係ないのではないかと。向かいに座っている人が読んでいる本も気にならないし、あの子はどこに行くのかと想像することもないのかもしれないと思うのです。確かにスマホは便利です。一台あればなんだってできます。でもスマホはいつの間にか時間を奪ってしまう恐ろしい一面もあります。私には今の生活が忙しく疲れている人にぜひやってほしいことがあります。それは「顔を上げる」ことです。スマホをいじる人はどうして思いつめたような顔をしているのでしょうか。一度その小さな画面ではなく周りを見てください。今まで見えなかった、見ようとしていなかったいろいろなものが見えてくるはずですよ。生身の人間同士が関われることは、スマホという大きくて小さい窓では決して生み出すことのできない大切な何かを私たちに気づかせてくれるのではないのでしょうか。私もいつかスマホを持つでしょう。将来、スマホよりも便利な道具が開発されるかもしれません。しかし、人類は何かを得るために別の何かを失ってきました。土地を増やし家を建てるために海や山を失った過去があるのです。きっと私たちはスマホを手にする代わりに人とのかかわりを失ってしまったのだと思います。スマホを使うのは悪いことではないですが、私は現実の世界の人間関係を大切に、私の周りから顔を上げて前を向く人を増やしたいです。そしていつか自分も相手も大切にすることが当たり前という世の中にしたい。それが私の願いです。

☆ホームページでも学校の様子をお知らせしています。ぜひご覧ください。 <http://www.obu-c.ed.jp/obu-j/>

3/31までは、<http://www.obu-j.ed.jp/>からも新HPへ案内されます